



南米[ブラジル]

1 農・畜産業の概況

農牧センサス(2006年)によると、農業経営体520万戸の所有面積は、3億5490万ヘクタールとなっており、このうち7670万ヘクタールが農耕地、1億7230万ヘクタールが牧草地として利用されている。2009年には農耕地の62%に当たる4767万ヘクタールが穀物生産に向けられた結果、生産量は前年比18.9%減の1億3510万トンとなった。そのほか世界的な生産量を誇る作物として、サトウキビ851万ヘクタール、コーヒー220万ヘクタール、オレンジ80万ヘクタールなどの生産が行われた。畜産分野では、牛肉において米国に次ぐ世界第2位、鶏肉において米国、中国に次ぐ3位となっており、豚肉も世界4位の生産量となっている。

2009年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出量はほぼ前年並みであったものの、2008年の国際金融危機の影響により、輸出額は前年度比10%減の647億8500万ドルとなった。また、輸入額は98億9800万ドルであったため、貿易黒字は前年比8.5%減の548億8700万ドルとなった。国全体の貿易黒字が252億7600万ドルであることから、農業部門が国の対外収支に重要な役割を持つことを示している。

2009年の主要輸出先について、地域別では前年1位のEUを抜いてアジアが最も大きく全体の30%を占め、国別では中国が13.8%と最大のシェアを占めた。

表1 農場面積と農場数の推移

	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数(千戸)	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積(千ha)	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料: IBGE(ブラジル地理統計院)

2. 畜産の動向

(1) 牛肉

肉牛生産は1億7230万ヘクタールの牧草地を利用した放牧肥育が中心で、耐暑性に優れたインド原産のゼブーに属するネローレ種が主に飼養されている。

2008年の米国に端を発した国際金融危機の影響は、2009年上半期、ブラジルの牛肉生産輸出部門に大打撃を与え、経営難に直面した数多くのパッカーが会社更生法を申請する事態を招いた。下半期に入ると国際市場における同危機の影響がやや緩和したことから、大手パッカーによる規模拡大を図るための投資が再開された。中でもブラジル最大のパッカー JBS-Friboi は、9月に米国第2の鶏肉工場 Pilgrim's Pride を28億ドルで買収したほか、年末には国内の大手パッカーBERTINとの経営統合を行なった。これらの吸収合併により、JBSグループの

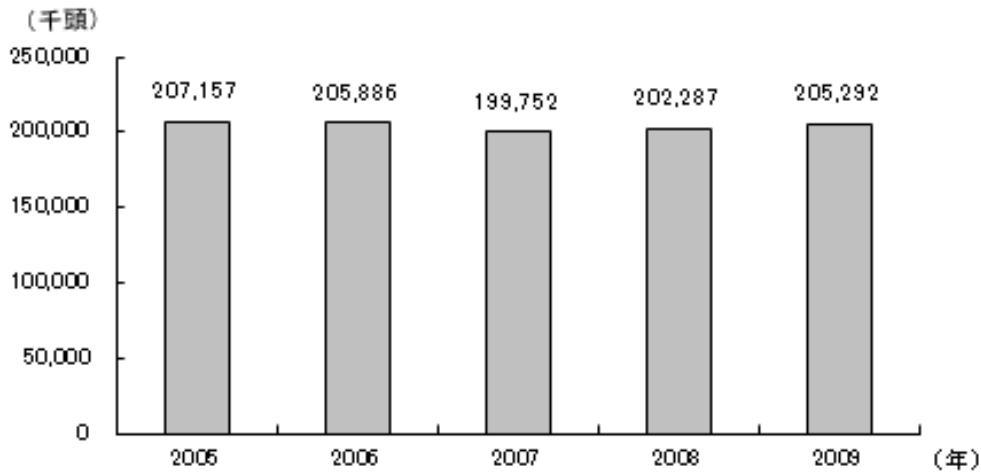
売上高は2006年当時の43億ドルから、2009年には552億ドルへと拡大し、牛と畜能力が1日当たり9万3000頭に達する世界最大のパッカーとなった。

家畜衛生分野では、2009年は特記すべき病気の発生はなく、口蹄疫対策面では前年の衛生ステータスが維持された。

① 飼養動向

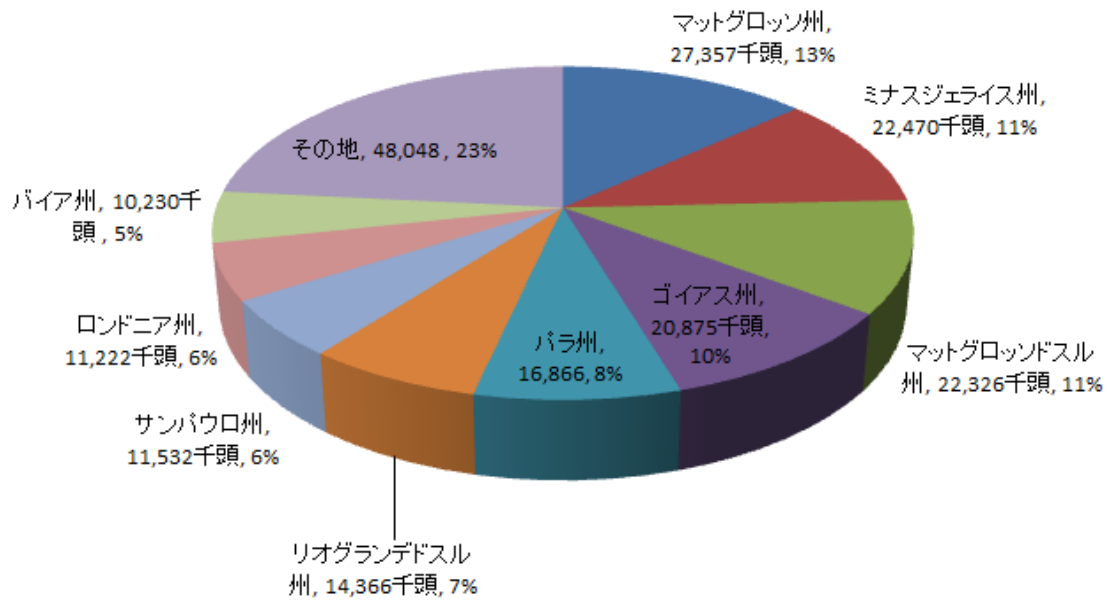
2009年の牛飼養頭数は、生産者が雌牛の保有を進めたことなどにより、前年の2億229万頭から1.5%増の2億529万頭となった。州別では、前年に引き続きマットグロッソ州が2736万頭で最も多く、全国の13.3%を占めた。これにミナスジェライス州の2247万頭、マットグロッソドスル州2233万頭、ゴイアス州2088万頭が続いており、この4州で全体の45.3%を占めた。

図1 農場面積と農場数の推移



資料: CONAB (国家食糧供給公社)

図2州別飼養頭数(2009年)



資料: IBGE

② 牛肉の需給動向

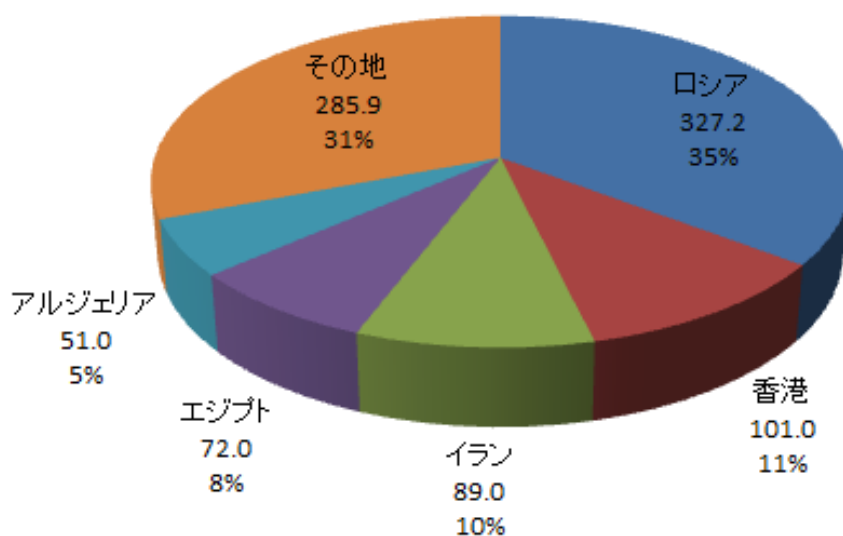
ア) 生産

2009年の牛肉生産量は前年比4.1%減の847万4000トン(枝肉換算)と2007年以降3年連続の減少となった。これは、2002~2007年の牛肉価格の下落により雌牛が大量にと畜され、子牛の供給量が減少したことなどを受けて牛肉生産量が減少した。その結果、1000万トン台への回復はみられなかった。

イ) 輸出

2009年の牛肉輸出量は、前年比11.3%減の170万3000トン(枝肉換算)であった。これは、ロシアやサウジアラビアなど輸出先が産油国であるため、国際金融危機による原油価格暴落の影響で、これらの市場の牛肉需要が減少したことによる。しかし、下半期には世界的な需要の回復により、徐々に回復した。また、7月には、EU向けヒルトン枠(一定基準を満たす骨なし高級生鮮牛肉に関する関税割当制度)が5千トンから1万トンへ拡大されたものの、割当数量を大きく下回った。2009年の主要輸出先はロシア、香港およびイランであり、この3国で全体の56%を占めた。

図3生鮮肉(冷凍、冷蔵)の輸出先国(2009年)



資料:ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)

ウ) 消費

2009年の国内消費量は、生産量の減少などにより、前年比1.9%減の681万1000トンとされ、1人当たり年間消費量は35.6キログラムであった。

表2 牛肉需給の推移

	2005	2006	2007	2008	2009
生産量(千トン)	9,229	10,183	10,082	8,839	8,474
輸入量(千トン)	52.5	27	31	30	39
輸出量(千トン)	1,923	2,178	2,285	1,919	1,703
1人当たりの消費量(kg/人/年)	36	36	37	37	36

資料:ブラジル農務省、ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)

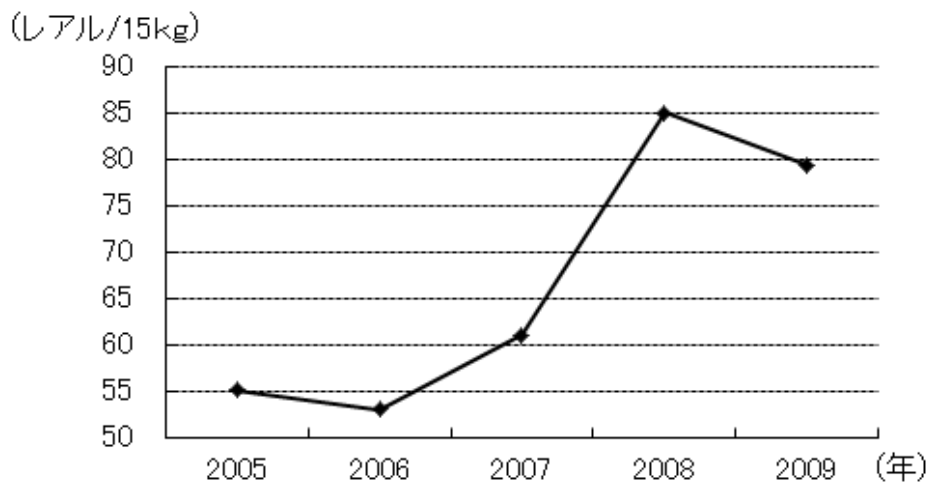
注:枝肉重量ベース

③牛肉の価格動向

ブラジルでは生体取引が主体であるため、生産者販売価格は生体15キログラム単位(アローバ)で示される。サ

ンパウロ州における2009年の肥育牛の年間平均価格は、前年比6.6%安の1アローバ(15キログラム)当たり79.28リアルであった。一方、卸売価格は、前年比3.9%高の枝肉1キログラム当たり6.2リアルとなった。

図4 肉牛価格の推移(サンパウロ州)



資料: CONAB

(2) 養鶏、鶏肉

2008年は生産量・輸出量ともに過去最高を記録したものの、2009年の数量はほぼ前年並みの326万5749トンであったが、金額は48億1776万ドルと前年比17.2%減となるなど、ブロイラー生産・輸出部門は国際金融危機の影響を大きく受けた。

このような状況下で、国内最大の鶏肉パッカーSADIA社は資金運用の失敗から、巨額の損失を発生させ、競合企業のPERDIGAO社との合併を余儀なくされた。合併後のBRF Brasil Foods社は世界最大の鶏肉輸出企業となるが、市場への影響が大きいため、正式な発足には経済擁護管理審議会(CADE、法務省管轄の国内市場独占禁止監督機関)の承認が必要となった。

① ブロイラーの需給動向

ア) 生産動向

2009年のブロイラー用ひなふ化羽数は当初、世界的なブロイラー需要の減退を理由として、ヒナ生産が大幅に縮小し、1カ月当たり4億3000羽に落ちたものの、国際金融危機の影響緩和に伴う需要の回復により、5億羽のレベルに戻った。この結果、年間を通じたふ化羽数は前年比1.7%増の55億6000万羽となり、鶏肉生産量はほぼ前年並みの1102万1000トンに達した。

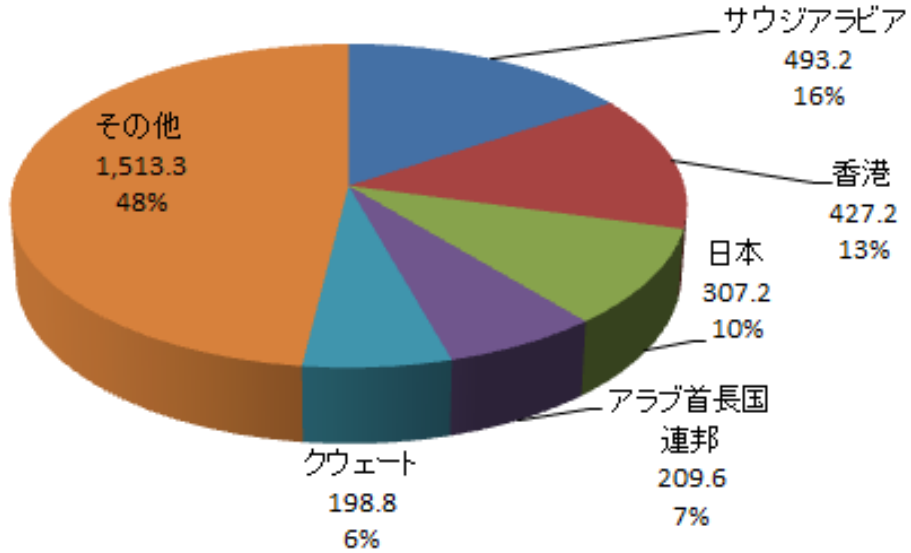
イ) 輸出

2009年のブロイラー輸出は、国際金融危機の影響で年初の数カ月間に減少した後、次第に回復した。生鮮肉がサウジアラビアや香港向けなどで増加した一方、2008年最大の輸出先であった日本やベネズエラ、ロシアなどで同危機の影響を受け需要が減少したことから、ほぼ前年並みの326万5700トンとなった。ただし、輸出額(加工品を含む)は前年比8.5%減の58億1000万ドルとなった。

形態別ではパーツが全体の57%、丸鳥が43%となっており、
輸出先国は第1位のサウジアラビアが全体の15.1%、次

いで香港が13.1%、日本が9.4%を占めた。

図5 鶏肉の輸出先国(2009年)



資料: SECEX

ウ) 消費

2009年の1人当たり鶏肉消費量は、年初に国際金融危機の影響で需要が減退したことなどから、前年比1.0%減の38.6キログラムとなった。

表4 鶏肉需給の推移

	2005	2006	2007	2008	2009
ひな生産羽数(百万羽)	4,690	4,571	5,145	5,463	5,557
生産量(千トン)	9,348	9,354	10,305	11,033	11,021
輸出量(千トン)	2,846	2,713	3,287	3,645	3,634
1人当たりの消費量(kg/人/年)	35.3	35.8	38.1	39.7	38.6

資料: CONAB

② ブロイラーの価格動向

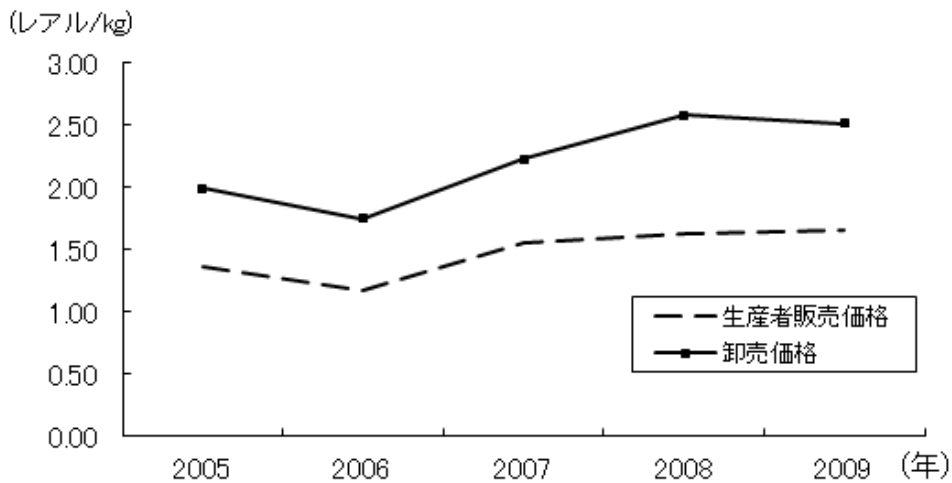
ア) 生産者販売価格

2009年の生産者販売価格は、生産コストの増加などから、前年比1.2%高の1キログラム当たり1.65リアルとなった。

イ) 卸売価格

2009年のサンパウロ市場における卸売価格は、国際金融危機の影響で国内消費が減少したことなどから、前年比2.7%安の同2.51リアルとなった。

図6 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



資料:

3 飼料穀物

トウモロコシの生産量および輸出量が世界第3位であるブラジルでは、パラナ州をはじめとした南部(ウルグアイ国境部)で約半分の生産が行われている。トウモロコシの栽培は夏作(第1期作)と冬作(第2期作)の年2回行われ、第1期作はパラナ州(南部)、第2期作はマットグrosso州(中西部)が最大の生産地帯となっている。また、第2期作は大豆の裏作として生産されている。

2009年は、南部および中西部のマットグrosso州の一部に長期にわたる乾燥の被害があり、生産量は減少したが、前年より繰り越された在庫が十分であったため、安定した供給が行われた。

① 主要政策

2009/10年度農業プランにおいて、農業融資政策として、一般農業部門に対し925億リアル、家族農業部門に

対し 150 億リアル、計 1075 億リアルを提供することが盛り込まれた。一般農業部門に対する資金の内、662 億リアルが営農および販売のための融資、140 億リアルが農業投資プログラムに対する融資、123 億リアルがバイオエタノール産業など特定産業への融資とされた。

農業融資に関して、政府が国庫から助成する年利を 6.75%とした。また、トウモロコシおよび大豆の営農融資の限度額を 55 万リアルから 60 万リアルに引き上げたほか、販売融資(収穫時における生産者の売り急ぎにより、販売価格の暴落を避けるため、政府が生産者の保有する農産物を担保とする融資)に向けた連邦政府貸付の基準となる最低保証価格を全面的に上げた。

また、同プランでは中規模農業者の支援、協同組合の体質改善、持続性ある農業の確立が優先項目とされ、特に中規模農業者に関して、中核的存在であることの重要性が再認識され、より多くの農家が支援の対象となるように、中規模農業者の基準を従来の年間売上高 25 万リアルから 50 万リアルに上げるため、前年度比 72%増の 50 億リアルの予算が計画された。

② 飼料穀物の需給動向

2008/09 年度のトウモロコシ生産は、主生産地において、作付時期(2008 年末)を含む長期の乾燥によって単収が低下したことから、前年度比 13.1%減の 5100 万トンであった。しかし、期首在庫が 1130 万トンと潤沢であったため、国内市場への供給は安定的に行われた上に、ドル安リアル高という不利な条件ながら、前年度比 21.9%増の 780 万トンが輸出された。輸出については、輸送コストの軽減を図る政府の支援(PEP(農産物流通助成金))により為替の影響が緩和された。

同年度の大豆の生産量は、トウモロコシ同様、主産地であるパラナ州などの乾燥の影響によって前年度比 4.7%減の 5720 万トンとなった。輸出量は、生産量が減少したにもかかわらず、同 16.7%増の 2860 万トンとなった。中国の需要が増加したことに加え、競合国であるアルゼンチンの乾燥による不作と輸出の減少が影響した。

表5 トウモロコシの需給表

(単位:千トン)

区分/年度	期首在庫	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫
2004/2005	7,802	35,007	597	39,100	1,070	3,135
2005/2006	3,113	42,515	956	39,830	3,938	2,816
2006/2007	2,816	51,370	1,096	41,909	10,934	2,438
2007/2008	2,438	58,652	808	44,259	6,400	11,240
2008/2009	11,240	51,004	1,133	45,320	7,765	10,291

資料: CONAB

表6 大豆の需給表

(単位:千トン)

区分/年度	期首在庫	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫
2004/2005	4,522	52,305	368	32,025	22,435	2,735
2005/2006	2,735	55,027	49	30,383	24,958	2,470
2006/2007	2,470	58,392	98	33,550	23,734	3,676
2007/2008	3,676	66,018	96	34,750	24,500	4,540
2008/2009	4,540	57,162	100	32,564	28,563	675

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2009年におけるトウモロコシ価格は、上半期は60キログラム当たり18.93リアルであったが、下半期は生産量の増加が確実に従い、次第に下落し、通年では前年度比19.2%安の60キログラム当たり18.11リアルとなった。

大豆価格についても、トウモロコシ同様、上半期は同45.83リアルであったが、下半期は同42.67リアルと値を下げ、2009年平均では、前年比2.9%高の同44.25リアルであった。

表7 トウモロコシ価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
生産者販売価格	15.69	14.06	20.42	22.42	18.11

資料: CONAB